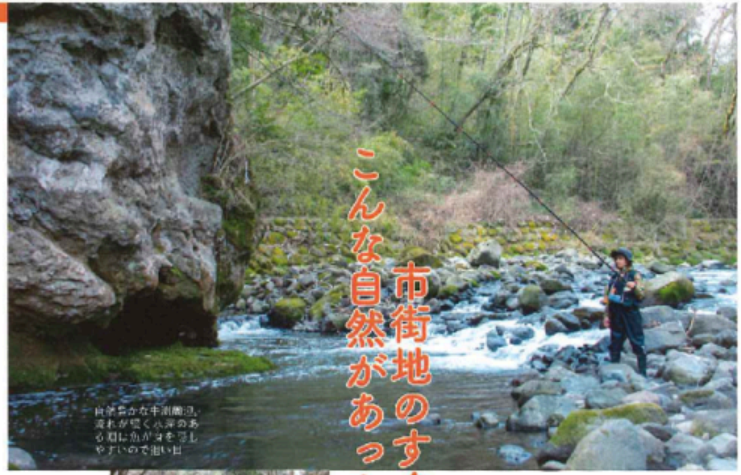

市街地のすぐ近くにこんな自然があったのです

目印豊かな牛浦橋辺。流れが緩く水深のある箇所は魚が身を寄せやすいので狙い目

釣れなかったらとにかく移動！

現地でカワムシを採取！

は水深の2倍の高さが目安で、目印同士の間隔は20cm程度です。

オモリとなるガン玉は、水深によって5号～5Bを使い分けます。オモリが軽すぎるとエサが水面に浮いてしまい、重すぎると根掛かりしやすくなるので、場所を移動したらその都度、こまめに重さを変えて調配。ちょっと大変ですが、このひと手間によって釣果が大きく変わるぐらい重要な作業です！エサはミミズ、イクラ、ブドウムシが一般的で、現地でカワムシを捕まえるのもオススメ。エサの種類によって専用バリを使い分けます。

ガン玉を付け替え、エサを川底に流す！

アマゴはある程度、水深があって、身を隠しやすい場所が大好き。漢字で「雨子」とも書かれるように、雨が降って水が濁ると活性が上がるので、雨の多い5～6月が狙い目です。ただし、増水時はそれだけ危険も多くなるので、避難経路の確認は必須。釣り人の気配が少なく、魚の警戒心も薄まる早朝を狙うのがオススメです。

御殿場市内にあるBiquetteのパンとSocket roast worksのコーヒーでランチ

大型のアマゴは迫力満点！

大きい！

外で飲むコーヒーは格別！

釣りの合間に川のせせらぎを聞きながらのんびり休憩

エサを投入する時は、川の流れを要チェック。川は中央付近ほど流れが速く、岸に近づくほど緩やかになります。狙うポイントは、速い流れと緩い流れの境目。アマゴに怪しまれないよう、不用意に川に入らず、そっとポイントに近づいて仕掛けを流します。

川は深さによっても流速が変わり、底層にいくほど流れは緩やかになります。まずはアマゴが定位しやすい底層を狙うのがセオリー。ミチイトに付けた目印が表層と同じ速さで流れていたら、エサが底まで届いていない証拠です。反対に目印が流れていかない場合はオモリが重すぎるので、ガン玉を付け替えて重さを調節します。

川の温度がアマゴの適水温（8～18℃）であれば、流速のあるポイント（川の表面など）を狙うのも有効です。流れが速いとエサが流れてくる頻度が多くなるため、アマゴが釣りエサに反応しやすくなります。

「目印が強く引き込まれる・小刻みに震える」「流れている目印が止まる」などのアタリがあったら、仕掛けを10cmほど動かすイメージで竿を引いて魚を掛けます。あまり強く合わせると、糸が切れてしまうので気を付けて。アタリがないようであればどんどん移動して、ポイントを変えていくのも大事。渓流は足場が悪いので、魚をかけた時に慌ててバラさないよう、やり取りするポジションをあらかじめ決めて臨みましょう！

釣りの後は… 鮎沢川の近くにある「あしがら温泉」で当日の日釣り券を提示すると、無料で入浴することができます。鮎沢川は冬になるとニジマスのキャッチ&リリースもできるので、1年通じて渓流釣りが楽しめますよ。